

問 市内病院の医師不足・診療科の減少対策は

答 これまでの医師確保対策に加え、新規開業に対する補助制度を設ける

問 大湯環状列石の世界遺産登録を目指した取り組みについて

答 縄文遺跡大湯環状列石を「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産として世界遺産登録を目指しているが、他遺跡との連携を密にして取り組みが重要であると考え、どのように行っているか。

答 縄文遺跡群世界遺産登録推進本部では、ホームページの運営やロゴマークの活用のほか、パンフレットやピンバッジ、のぼり旗を作成し、構成資産共通の活用を図っているが、今年度は新たに遺跡マップや共通サインの設置を計画している。また、毎年各

道県を会場に、構成資産の紹介や発表のフォーラムを開催しており、大湯環状列石についても、縄文遺跡群の価値について理解を深めているところであることから、引き続きこれらの共通ツールを活用した取り組みを進めていくとともに、今後開催を予定している世界遺産登録推進シンポジウムでは、他の構成市町を招待するなど、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の各資産との連携を図りながら、大湯ストーンサークルの価値や魅力を積極的に発信していく。



黒澤 一夫 議員
(鹿真会・公明)

質問した項目 ■観光産業の発展と農業特産品の生産振興への取り組みについて ■縄文遺跡大湯環状列石(ストーンサークル)の世界遺産登録を目指した取り組みについて ■県立3高校の統合計画に對しての市の対応と市内小中学校間の教育連携への取り組みについて ■医師確保対策とその状況について ■コモッセ北側の市道八正寺久保田線及び久保田7号線の久保田橋までの拡幅整備について ■安心して暮らせる地域づくり、地域コミュニティの強化、活性化への支援について

問 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の国内推薦決定後の流れは

答 ことし11月に国内推薦候補となった場合、順調にいくと2021年6月に世界遺産に決定

稼げる観光について

問 かつの観光物産公社が、今年3月に晴れて正式にDMOとして登録されたが、どのようなメリットがあるか。

答 地域DMOに正式登録された最大のメリットは、国が実施する人材育成や観光コンテンツの造成に関する補助が受けやすくなったことや、DMO候補登録時に比べ、国や東北観光推進機構から優先的に情報が得られることに加え、DMO独自のネットワークであるDMOネットを通じて、多くの観光コンテンツの情報が共有が図られるようになった点などがある。

問 今年度から鹿角市固定資産税が現況地目の確認により、税額が激増し納税が困難なケースがあるが、市として激変緩和措置を行う考えはないか。

答 宅地負担調整の仕組みがあり、地価公示価格等の影響を受けて課税標準額が上昇する場合には、負担がなだらかに上がるよう段階的に引き上げるものであるが、こうした措置は、評価額そのものの見直しによる影響が大ききような場合には限られており、今回のようなケースには適用としない。



倉岡 誠 議員
(誠心会)

質問した項目 ■稼げる観光について ■大湯環状列石の世界遺産登録について ■教職員の多忙化について ■固定資産税賦課(課税)について

問 小中学校のトイレの洋式化改修の進捗状況は

答 洋式化率60%以上が基本目標。八幡平小、十和田・尾去沢中が基本目標を下回っているため、順次改修工事を実施する

鹿角観光の活性化策について

問 外国人観光客受け入れ対策の内容

答 市内宿泊施設と観光施設を組み入れたツアーを催行する旅行代理店に対して助成を行っているが、個人や少人数で訪日する旅行者のニーズに合わせ、助成要件を参加者10人以上から5人以上に緩和するなど、情勢変化を的確に捉えた対応のほか、外国人観光客の受け入れ体制を整えるため、市内事業者を対象にWiFiや免税店の環境整備を支援してきたところである。

問 地域新電力「かつの」について、事業の着手に至った経緯と目的は。

答 事業モデルの再検証を進めてきた結果、経済的に最も厳しい市場価格で電気を調達した場合でも利益が出せる見込みが立ったことや、地元の発電事業者から協力を得られ電気の確保と電力の地産地消に向けた体制を整えることができたことから事業化に踏み切ることにしたもので、目的は電力資金の域内循環であり、利益は市内の再生エネルギーへ投資するなどとして、地域に還元させていく。

問 地域新電力「かつの」について、事業の着手に至った経緯と目的は。

答 事業モデルの再検証を進めてきた結果、経済的に最も厳しい市場価格で電気を調達した場合でも利益が出せる見込みが立ったことや、地元の発電事業者から協力を得られ電気の確保と電力の地産地消に向けた体制を整えることができたことから事業化に踏み切ることにしたもので、目的は電力資金の域内循環であり、利益は市内の再生エネルギーへ投資するなどとして、地域に還元させていく。

質問した項目 ■鹿角観光の活性化策について ■地域新電力「かつの」について ■小中学校の教育環境整備について

児玉 悦朗 議員
(清風会)



問 花輪ばやしの東京五輪セレモニー参加要請は

答 花輪ばやし祭典委員会からは具体的な内容が示されていない

野生鳥獣被害対策について

問 近年、熊以外に鹿やイノシシの被害が全国的に取り上げられている。イノシシに関しては県内でも少なからず捕獲されていることから、鹿角市においても早期の対応が必要と思うがどうか。

答 ニホンジカとイノシシは東北地方で急速に生息域を広げており、岩手県では2億円に上る被害が発生している。本市での目撃例はわずかではあるが、繁殖力が高く、生態系以外にも影響を及ぼすことが予想されるため有害駆除による積極的な捕獲を進め、被害防止に努めていく。

人口減少対策について

問 市の計画では2020年に人口3万人を確保とあるが、減少に歯止めがかからず厳しい状況にある。主要因とそれを踏まえた今後の取り組みは。

答 本市の人口減少の要因は高等教育や雇用の場を求める若年層の転出により将来の親世代の減少が続いていることである。本市としては、ふるさとに帰り活躍したいという意識の醸成を図り、これまでの子育て支援策をさらに進め、人口減少の抑制を目指していく。

安保誠一郎 議員
(無会派)



質問した項目 ■農業支援について ■伝統芸能文化財支援について ■地域づくりについて